

108
10001

統計検定法ニ於ケル資料ノ教ニツイテ

京城帝大 宇野利雄、松本勝正

九月九日 慶付

Weldon ノ骰子ノ実験ハ著名ナ例デヨク教科書ナドニ採用
サレテアルノ2個ノ骰子ヲ同時ニ振ツテ5ノ目カ6ノ目ノ出タ
モノノ教ヲ讀ミ、コノ実験ヲ26306回繰返シテ、得ラレタ実
験値ニ χ^2 検定法ヲ適用シ骰子が正シク作ラレテ居ナカッタト
イフコトヲ結論シテアルノデアアル。

我マハコノ実験ニカネガ不疑義ヲ抱イテ居タノデアアルガ、ソマタ
マ例ノ Tippett ノ任意見本ノ表 (Tippett, Random
Sampling Numbers) ニツキ共著者ノ一人(松本)ガ衆
ニテ一様分布ノ任意見本デアアルカ否カヲ W^2 検定法デ検定シテ
見タ、資料ノ教ハ表ノ全部ヲ採用スレバ10400デアアリ、

$W^2 = 2.943$ ナル値ヲ得タ。 W^2 検定法トシテ行ハ
レテアル理論値ハ之ガ0.400乃至1.600ノ間ニナケレバ検定
ニハ合格シナイコトニナルノデ Tippett 表ノ一様分布性ハ
不合格トイフコトニナッタ。

(1947)

丁度 *Weldon* の骰子ヲ不合格 = シタノト同ジ様ナ事情ナノ
 デ、コ、テ考ヘラメグラシテ見ルト、ドウモ何レノ例デモ余リニ
 資料ノ数ガ多過ギルノデハナイカト考ヘラレタ。ソコデ試ミニ
Tippett ノ表ニツキノ全部ヲ取ラズ、一頁分ヲ取ツテ同ジク
 W^2 - 検定法ヲマツテ見タ。コノ際ハ資料ノ数ハ 400 個デアリ、
 W^2 ノ理論的合格値ハ 0.4006 乃至 1.5994 ノ間ニ入ルコト
 ニナル。

一頁分トシテ第一頁及ビ第十頁ノ二例ヲ取ツテ見ルト、第一頁ニ
 ツイテハ $W^2 = 1.3098$ 、第十頁デハ $W^2 = 0.575$ ノトナ
 リ、今度ハイヅレモ見事ニ合格シタ。

ソコデコレ等ノ事情ニ對スル若干ノ理論的考察ヲ行ツテ見タ。
 マツ X^2 - 検定法ニツキ K - 個ノ場合ガソレゾレ確率 p_i
 ($i = 1, 2, \dots, K$) ヲ以テ起ルノガ嚴格ナ理想の場合デア
 ルガ、實ハコレガ絶対嚴格デハナクテ少シクコノ確率 = 誤差ガアリ
 眞実ハ $p_i + \delta_i$ デアツタトスル。勿論檢定ハ各々ガ p_i デア
 ルトシテ行ハレルモノデアリ、サテコレニツイテ X^2 ノ式ヲ作ツ
 テ見ル。

実験ノ總数 n 、 i 番目ノ場合ノ起ツタ数ヲ n_i トスルト

χ^2 ハ

$$\frac{1}{np} \sum (n_i - np_i)^2$$

デアラハサレル。然ルニ之ハ

$$\begin{aligned} \chi^2 &= \frac{1}{np_i} \sum \{n_i - n(p_i + s_i) + ns_i\}^2 \\ &= \frac{1}{np_i} \left\{ \sum \{n_i - n(p_i + s_i)\}^2 + 2ns_i \{n_i - n(p_i + s_i)\} + ns_i^2 \right\} \end{aligned}$$

トナリ、之ヲ平均スルトキ

$$\overline{n_i - n(p_i + s_i)} = 0$$

$$\overline{\{n_i - n(p_i + s_i)\}^2} = n(p_i + s_i)\{1 - (p_i + s_i)\}$$

デアル故

$$\overline{\chi^2} = \sum \left(1 + \frac{s_i}{p_i}\right) \{1 - (p_i + s_i)\} + n \sum \frac{s_i^2}{p_i}$$

トナル。 s_i が p_i = 比ニ相当 = 小デアルトシテ $\frac{s_i}{p_i} \approx 1$ = 比

ニ省略スレバ

$$\overline{\chi^2} \approx \sum \{1 - (p_i + s_i)\} + n \sum \frac{s_i^2}{p_i}$$

$$= (K-1) + n \sum \frac{s_i^2}{p_i}$$

トナル、第一項が通常ノ χ^2 -検定法 = アラハレル χ^2 ノ式デアリ、之 = n = 比例スル第二項ガ加ハツテキル、コノ第二項ノ存在ガ最初 = 拳ゲタ我々ノ豫想ヲ説明スルモノデアアル、

即チ各場所ノ確率 = 僅カノ誤差 S_i ガアルトスルト、 n ヲ増ス = ツレコノ第二項ノ影響ガ非常 = キイテ來ル、コノ小誤差 S_i ヲ絶対最格 = 峻拒スルトスレバ別デアアルガ、 S_i ガ非常 = 小サケレバ許シテモイ、トイフ場合ナラ、検定資料ノ数ヲ沢山取り過ギルト許シテモイ、モノマデモ皆不合格 = シテシマフ事 = ナル、

最初 = 拳ゲタ *Waldorn* ノ骰子ノ例ナド正 = コレ = 該当スルモノデアラウト思ハレル、

W^2 -法 = ツイテノ考察モ全ク同様デアアル、

Tippett 表ノ場合 = ツイテノ計算ヲ行ツテ見ルト理想的分布函数 X 、之 = $S(x)$ 、ダケノ誤差ガアルトシ、資料ノ数 n 、実験出現回数 $S_{(r)}$ 、又重ミハ $W^2 = n$ トナル様 $\frac{b}{n} = \text{トレバ}$

$$\begin{aligned} W^2 &= 6n \int_0^1 \{1 - S(x)\}^2 dx \\ &= 6n \int_0^1 \{[x + S(x) - S(x)] - Sa\}^2 dx \\ &= 6n \int_0^1 [x + S(x) - S(x)]^2 dx - 12n \int_0^1 [x + Sa - Sa] S(x) dx \\ &\quad + 6n \int_0^1 Sa^2 dx \end{aligned}$$

1, 2
2005

$x + S(x) - S(x) = 0$ ナル故第ニ項ハ消失シ

$$\overline{W^2} = 6 \int_0^1 \{x + S(x)\} \{1 - x - S(x)\} dx + 6n \int_0^1 S^2(x) dx$$

前ト同ジク $S(x)$ が非常ニ小トシテ, $1 =$ 比ニ省略スレバ

$$W^2 = 1 + 6n \int_0^1 S^2(x) dx$$

トナル. $S(x)$ シ考慮セザルトキハ第一項ノミデアアルガ之ヲ考
慮スルト第ニ項ガ附加サレ前ノ場合ニ於ケルト全ク同様ノ考察ガ
成立スル.